

## 名古屋市内の鉄道駅におけるバリアフリー化対策に関する一考察

名古屋工業大学 正会員 山本幸司  
中央復建コンサルタンツ 坂根裕美

## 1. はじめに

我が国では急速に高齢化が進んでおり、またノーマライゼーションの理念が普及したことにより、高齢者や障害者等が社会参加する機会が増大している。このような社会背景の中で、高齢者や障害者等が日常生活において自ら自由に円滑に移動するためには、公共交通機関、その中でも鉄道駅のバリアフリー化を進めることが急務となっている。

バリアフリー新法においてもバリアフリー化は、鉄道駅を新設する場合には義務が、既存の鉄道駅である場合には努力義務が課せられているが、バリアフリー化対策が実施されたといっても、利用者のニーズに合致し、その効果を十分に発揮しているかどうかは一概に判断できない。

そこで本研究では、まず名古屋市内の鉄道駅を取り上げ、バリアフリー化の現状を把握する。次にバリアフリー化対策が実施された鉄道駅について現地調査を行い、鉄道駅のバリアフリー化推進のための提言を行う。

## 2. 名古屋市内のバリアフリー化の現状

国土交通省が鉄軌道駅のバリアフリー化の現状を一覧化して公表している「らくらくおでかけ度一覧表」を名古屋市内の鉄道事業者別に調査分析した。平成16年と平成17年を比べると、整備率は平成17年の方が高くなっており、また傾向として新設駅はバリアフリー新法に基づいて十分に整備されているものの、対策が講じられていない既存駅もあることが明らかとなった。バリアフリー新法の基準を満たす鉄道駅は年々増加していくと思われるが、今後ますますバリアフリー化の推進が必要である。

## 3. JR鶴舞駅における現地調査

上述したように、バリアフリー化対策が実施された鉄道駅は増加しているが、バリアフリー化されたといっても、それが利用者にとって本当に使いやすいかどうかは明らかでない。そこで利用実態を知るために、

キーワード バリアフリー、交通施設

連絡先 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会基盤計画学研究室 TEL052-735-5484

バリアフリー化対策が実施されたJR鶴舞駅を対象として、平成16年11月16日(火)に駅改札口及びエレベータの利用者層と利用者数に関する調査を行った。

JR鶴舞駅は地下鉄鶴舞駅との乗換駅である。また名大病院に近い移動制約者の利用が多いと推定される。同駅には鶴舞公園に近い公園口と名大病院に近い病院口があるが、公園口にはエレベータと多機能トイレが設置されているものの、病院口にはいずれも設置されていない。

調査結果は表1、2に示すように、公園口と病院口ともに移動制約者数は少ないことが明らかとなった。また、エレベータを利用する人自体もそれほど多くなく、利用者のほとんどが健常者という結果が得られた。

表1 JR鶴舞駅改札口における調査結果(人)

		乗車うち 健常者数	移動 制約者数	降車うち 健常者数	移動 制約者数
病院 口	8:00~9:00	123	0	1994	17
	10:30~11:30	180	6	357	16
	17:00~18:00	851	6	252	1
公 園 口	8:00~9:00	581	4	3812	5
	10:30~11:30	242	8	351	13
	17:00~18:00	1372	6	503	6

表2 JR鶴舞駅エレベータ前における調査結果(人)

		乗車うち 健常者数	移動 制約者数	降車うち 健常者数	移動 制約者数
のり ば 1番	8:00~9:00	42	0	22	1
	10:30~11:30	8	2	2	1
	17:00~18:00	93	4	5	1
のり ば 2番	8:00~9:00	39	11	94	2
	10:30~11:30	8	1	0	1
	17:00~18:00	21	5	7	3

## 4. 名大病院玄関前における現地調査

3.で示した調査結果が利用状況を正確に把握したものであるかどうかを検証すべく、名大病院外来棟入口において、平成16年12月14日(火)に来院する移動制約者数並びに交通手段に関する調査を行った。

その結果は表3に示すように、徒歩も多いものの、車利用者の方が多いことが明らかとなった。これらのことから名大病院に来院する移動制約者はJR鶴舞駅

をあまり利用していないと考えられた。

表3 名大病院玄関前による調査結果 (人)

	徒歩で来院する 移動制約者数	車で来院する 移動制約者数	計
8:00～9:00	35	54	89

## 5. 名大病院における移動制約者へのアンケート調査

3.及び4.に示した調査結果を踏まえて、移動制約者の立場からJR鶴舞駅に対する問題点の把握と改善策の検討を行うために、名大病院外来棟玄関前において、来院する移動制約者を対象とした、以下に概要を示すようなアンケート調査を実施した。

実施日：平成18年7月31日(月)～8月1日(金)

配布時間：8:00～12:00

配布数：310 回収数：238

(有効サンプル数：235 有効回収率：75.8%)

名大病院への交通手段に関する設問のうち、公共交通機関以外で来院している人の交通手段の選択理由を表4に示す。これより「公共交通機関が利用に適していない」が17%を占めていることがわかる。

表4 交通手段の選択理由 (%)

楽	32.3
使いやすい	8.1
交通の便がよい	4.4
公共交通機関が利用に適していない	16.8
交通費が安い	1.2
近い	4.1
遠い	8.9
所要時間が短い(早い)	15.0
その他	9.3

また、JR鶴舞駅と自宅最寄り駅の使いやすさに関する質問への回答を表5に示す。これらから、名大病院へ来院する移動制約者が公共交通機関を利用していない理由として、乗車駅となる自宅最寄り駅、あるいは自宅から最寄り駅までのアクセスルートがバリアフリー化されていないことに加えて、JR鶴舞駅にも問題があると考えられる。

表5 JR鶴舞駅と自宅の最寄り駅の使いやすさ (%)

	はい	いいえ
JR鶴舞駅は移動制約者にとって使いやすい駅だと思うか?	20.8	79.2
自宅の最寄り駅は移動制約者にとって使いやすい駅だと思うか?	40.2	59.8
自宅から最寄り駅まで移動制約者自身で移動が可能か?	53.7	46.3

具体的には、移動制約者にとってホームが長すぎること、及び病院口のバリアフリー化対策が不十分とい

うことである。事実、移動制約者がJR鶴舞駅に望む設備は、病院口のエレベータが最も多く、次いで病院口のエスカレータ、公園口のエスカレータ、公園口のエレベータという順になった。

アンケート調査結果の分析を通して、JR鶴舞駅のバリアフリー化はまだ不十分と判断せざるを得なかった。とりわけ病院口へのエレベータ設置を要望する移動制約者が多いことから、名大病院への来院者がより一層のバリアフリー化を必要とすることを考えれば、公園口ではなく病院口をバリアフリー化すべきであると考えられた。しかし、現実的には病院口側ホームの構造上の制約(ホーム幅員が狭いこと)からエレベータの設置場所の確保は困難である。

## 6. 鉄道駅バリアフリー化推進のための提言

JR鶴舞駅のように、バリアフリー化対策が実施されていても、移動制約者にとって実際には使いにくいという事態が生じないようにするためにも、バリアフリー化対策の実施時には、移動制約者の意見を取り入れるためのアンケート調査を行う等、十分な検討を行うべきである。

なお現行法では整備の対象が「駅(旅客施設)」となっているが、複数存在することの多い改札口のいずれかをバリアフリー化するかによって使いやすさが変わってくるため、バリアフリー化対策を講じるべき駅施設を具体的に明記すること、またその効果を事後分析するしくみを構築することが必要であろう。

加えて目的地側の鉄道駅だけではなく、自宅から目的地までのルート全体をバリアフリー化する必要があることにも留意すべきであるといえる。

## 7. おわりに

本研究では、名古屋市内の鉄道駅のバリアフリー化の現状を知ることができたが、その効果が出ているかどうかという観点から判断すると、いくつかの問題が残されていることも明らかにした。そして移動制約者の立場から見たバリアフリー化の問題と要望を知り、JR鶴舞駅のバリアフリー化の問題点と改善策を指摘することができた。しかし、JR鶴舞駅以外については利用実態調査を実施しておらず十分な検討ができていない。ともあれ、本研究で得られた成果を活かして、個々の駅についての整備課題とその対応策を検討し、今後もより利用者のニーズにあったバリアフリー化を推進していくことが必要である。